

＊平成20年度＊

決算のあらまし



平成20年度の一般会計を含む13会計の決算について、お知らせします。
決算については、9月24日から開かれている定例市議会で審議されています。
▽詳細 財政課（市庁舎5階、65・4106）

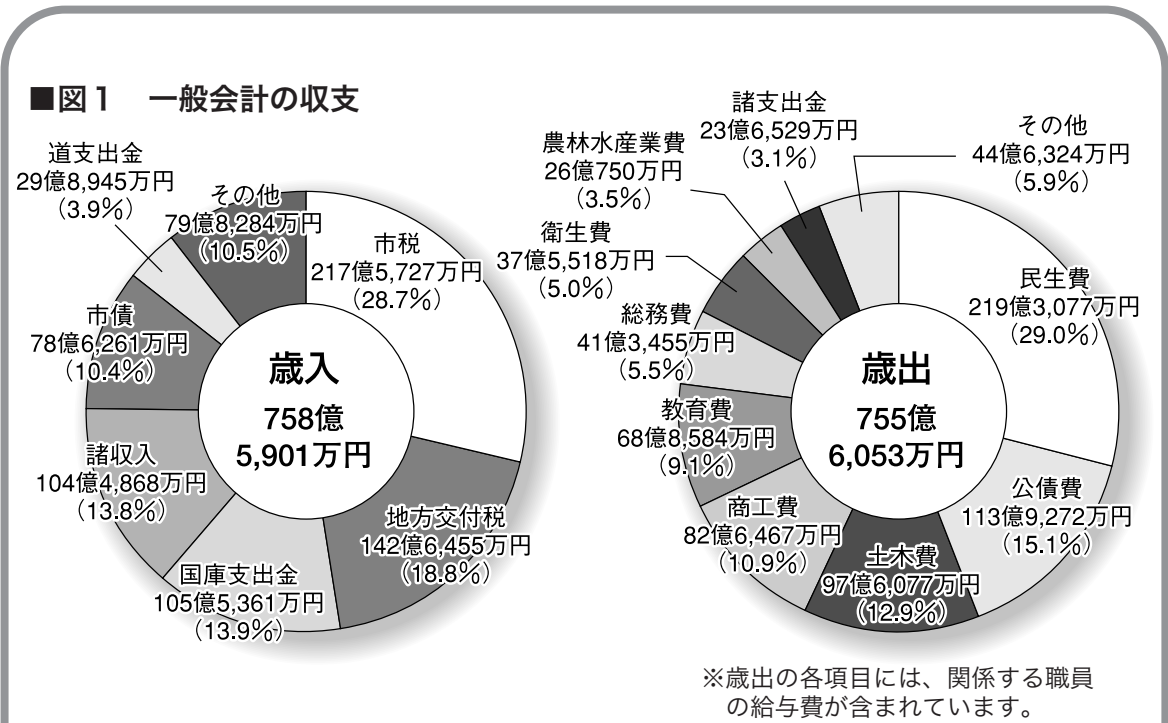
■平成20年度決算の概要■
市では、第五期総合計画の着実な推進を基本に、市民の皆さんが安心して暮らすことのできる、豊かで、活力にあふれる都市として発展するため、20年度においては、特に重視する施策として、「活力あふれるたくましい地域経済の再生」「子どもたちをすこやかに育む社会づくり」「安全で安心して暮らせるまちづくり」を掲げ、限られた財源のなか、重点的に事業を進めました。

■一般会計の収支■
平成20年度の決算額は、歳入が75億8,945万円、歳出が75億6,053万円、差引額は2億9,848万円となりました。
このうち、事業が20年度内に完了せず、翌年度に繰り越すために必要な財源2億6,53万円を除くと、実質的な黒字額は9億1,955万円となります。（図1）

◆一般会計の歳入の状況◆
平成19年度と比較し、市税、地方譲与税、地方消費税交付金などの減少により21億円の減少となったものの、地方交付税が7億円、国や道からの支出金が14億円、借

換債などにより市債が14億円増加し、平成20年度歳入全体では、約14億9千万円の増加となりました。

◆一般会計の歳出の特徴◆
平成19年度と比較し、国営土地改良事業や、北海道市営競馬組合清算負担金が減少したことなどにより21億円減少した一方で、障害者自立支援、北海道後期高齢者医療広域連合納付金などにより民生費が5億円、中小企業振興融資付金などにより商工費が5億円、帯広の森屋内スピードスケート場建設などにより土木費が12億円、金利の高い公的資金の繰上償還などにより公債費が12億円増加となり、平成20年度歳出全体では、14億8千万円の増加となりました。



■表1 特別・企業会計の決算

会計区分	歳入	歳出	実質収支
国民健康保険会計	165億4,908万円	167億8,199万円	△2億3,291万円
老人保健会計	14億4,649万円	14億5,040万円	△391万円
後期高齢者医療会計	14億8,136万円	14億4,364万円	3,772万円
介護保険会計	89億3,451万円	87億7,977万円	1億5,474万円
中島霊園事業会計	5,924万円	5,924万円	
簡易水道事業会計	4,798万円	4,798万円	
農村下水道事業会計	8,318万円	8,318万円	
ばんえい競馬会計	118億3,160万円	118億3,089万円	71万円
駐車場事業会計	1億6,341万円	1億6,341万円	
空港事業会計	5億7,682万円	5億7,682万円	
水道事業会計	65億5,641万円	76億5,427万円	△10億9,786万円
下水道事業会計	85億8,550万円	98億6,781万円	△12億8,231万円

■特別・企業会計の決算■
市の会計には、一般会計のほか、国民健康保険事業や介護保険事業など、特別の目的のために一般会計とは区別して経理している特別会計があり、平成20年度から加わった後期高齢者医療会計を含め10の特別会計があります。
また、水道事業など独立採算で経理している2つの企業会計があります。
特別会計と企業会計の決算額はそれぞれ表1のとおりです。



平成20年度に実施した主な施策とその成果

安心安全都市をめざして

- 地域防災無線デジタル移行に向けた基本設計の実施
- 全小学校へのAED設置（26校）
- 高規格救急自動車の整備（1台）



- 麻しん・風しん定期予防接種の充実
- 児童虐待防止マニュアルの作成
- 特定健康診査・特定保健指導の実施
- 後期高齢者（長寿）医療制度の運営
- 特定不妊治療費の助成（37件）
- 地域生活体験ハウス事業（延べ利用者数413人）
- 重度心身障害者医療費特別給付対象者の拡大
- 高齢者バス券交付事業（交付者数8212人）
- 小規模多機能型居宅介護拠点の整備（2施設）
- こども未来基金の創設
- 保育所の整備（乳児室増築1カ所、改修2カ所）
- 児童保育センターの整備（広野開所、若葉移転）

産業複合都市をめざして

- 保育所乳児受入枠の拡大（私立3人）
- こんにちは赤ちゃん事業の実施
- 民間木造住宅耐震化促進事業（2件助成）
- 産業振興ビジョンの策定
- 都市エリア産学官連携促進事業の推進
- 交換分合の実施（中八千代地区）
- 「食」の安全・安心推進プランに関する対策の実施（「食育フェスティバル」、おびひろ「大朝市」の開催など）
- 地元農畜産物の販路拡大促進（牛乳・乳製品の消費拡大事業など）
- 肉用牛の生産振興（定期巡回指導、受精卵採卵および預託牛への移植試験など）
- 良質堆肥生産の推進（堆肥施用状況調査、講習会の実施など）
- 農地・水・環境保全向上対策（共同活動支援・営農活動支援）
- エコフィールドTMRセンター設置支援
- 八千代公共育成牧場の整備
- 馬産振興および馬文化の継承（ミルキー号の嘱託採用、ばん系馬の生産振興など）
- 地域いたわり商店街事業に対する支援
- 帯広まちなか歩行者天国事業に対する支援
- 帯広十勝地域産業活性化協議会の設立
- 駅北多目的広場周辺環境の整備
- 魅力ある観光拠点づくり事業（愛国・幸福駅「恋人の聖地」の選定、愛国ふれあい広場の整備）

健全化判断比率に見る帯広市の財政状況

■健全化判断比率とは■

これまでの普通会計※1のみではなく、自治体全体の財政状況を把握しその状況を明らかにすることを目的として制定された「地方公共団体の財政の健全化に関する法律（財政健全化法）」に基づき、平成19年度決算から、市町村の財政状況を次の4つの指標によって公表することが義務付けられました。

○実質赤字比率

普通会計の実質的な赤字額が、市の標準的な収入に対してどのくらいの割合になるかを示す指標です。家計簿に例えると、年間赤字額の合計が収入の合計に占める割合をいいます。

○連結実質赤字比率

普通会計以外の特別会計、企業会計を含めたすべての会計の実質的な赤字額が、市の標準的な収入に対してどのくらいの割合になるかを示す指標です。家計簿に例えると、自分の世帯と親や子の世帯を合算し、その赤字額の合計が収入の合計に占める割合をいいます。

○実質公債費比率

一般会計などが負担する長期の借入金返済や、それに準じる支出が、市の標準的な収入に対してどのくらいの割合になるかを示す指標です。家計簿に例えると、住宅ローンなどの返済額の合計が年間の収入の合計に占める割合をいいます。

○将来負担比率

一般会計などが抱える実質的な負債の残高が、市の標準的な収入に対してどのくらいの割合になるかを示す指標です。家計簿に例え

ると、住宅ローンなどの借入金残高が、現在の収入を基準に考えると、何年間で返済できるかを示すものです。

※1…普通会計

全国の自治体を比較するための仮想の会計のこと。帯広市では一般会計に、特別会計のうち中島霊園事業会計、空港事業会計を加えたものをいいます。

■帯広市の健全化判断比率は■

平成19・20年度決算における帯広市の健全化判断比率は表2のとおりです。

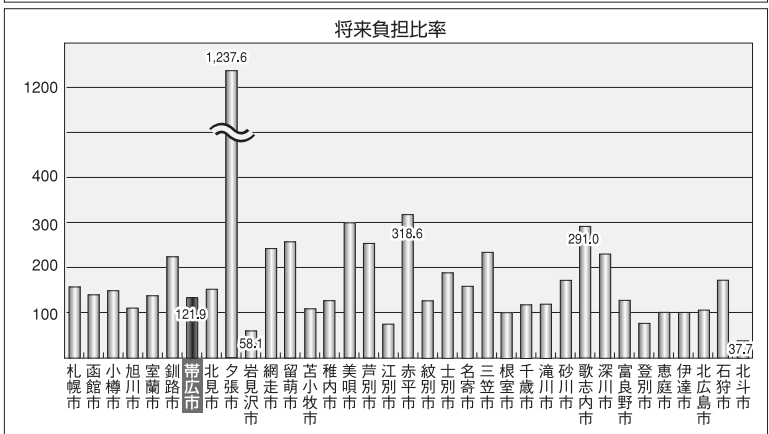
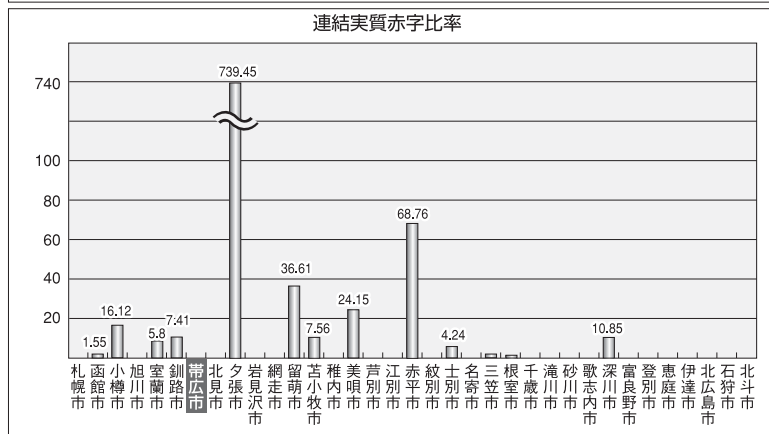
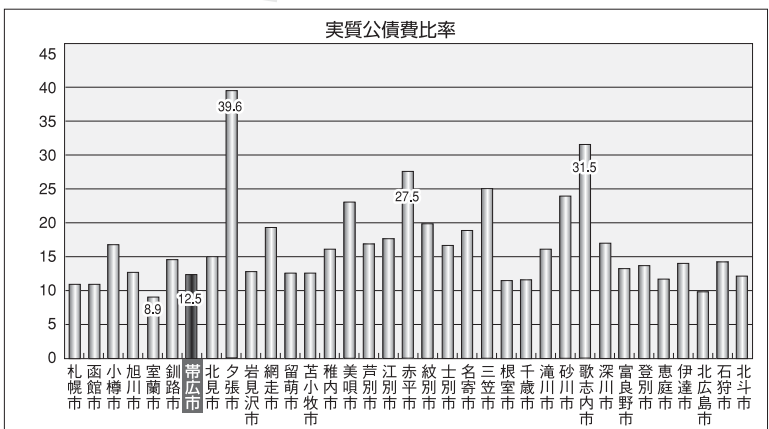
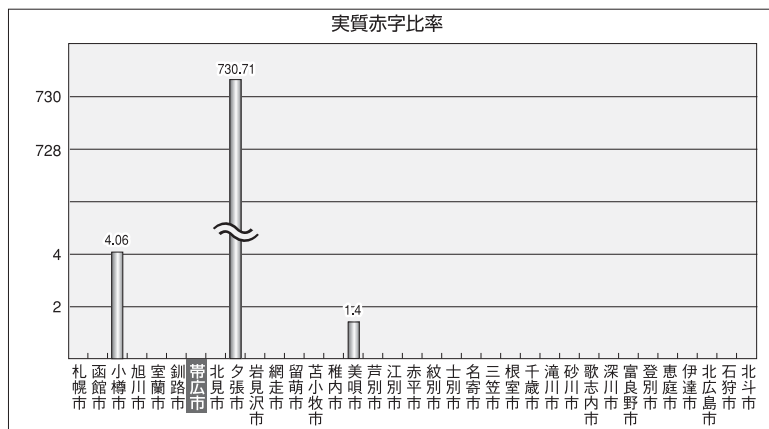
■表2 帯広市における健全化判断比率

(単位: %)

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
平成20年度	—	—	12.4	114.0
平成19年度	—	—	12.5	121.9
早期健全化基準(イエローカード)	11.49	16.49	25.0	350.0
財政再生基準(レッドカード)	20.00	40.00	35.0	

- 実質赤字比率および連結実質赤字比率は黒字決算の場合、「—」と表示されます
- 実質公債費比率は3カ年平均

■図2 平成19年度決算 道内各市 健全化判断比率の状況 (単位: %)



■道内他都市と比べると■

帯広市は、基準よりも低い値になっており、道内各都市と比べても平均より低い位置にあります。これからも常に健全な財政運営を心掛けていきます。(図2)

平成20年度決算における道内各市の健全化判断比率につきましては、現段階で公表されておりませんので、平成19年度決算における指標で比較しております。

環境共生都市をめざして

○ESCO事業の導入(市庁舎、とかちプラザ)

○グリーンパークの芝生更新

○帯広の森桜並木の整備

○(仮称)帯広の森市民活動センター実施設計

○道路台帳の電子化(5カ年整備1年目)

○景観百選の実施(37カ所選定)

生涯学習都市をめざして

○(仮称)帯広市教育基本計画の策定(策定体制の構築、市民検討委員会、社会教育委員会議の実施)

○特別支援教育補助員の拡大(1人増)

○情緒障害児学級の新設(小学校3、中学校1校)

○生活介助員の拡大(4人増)

○小学校の校舎、体育館耐震補強工事(4校)

○学校支援ボランティア活用モデル事業の実施(5校)

○子ども安全ネットワークの構築(市教委配信回数20回)

○帯広南商業高等学校開校五十年記念式典の実施および施設の整備

○新たな学校給食共同調理場の検討

○子どもの居場所づくり事業の拡充(明和小・北栄小)



子どもの居場所づくり

○動物園の遊具更新(ウオーターショット)

○帯広市民ギャラリーの整備

○総合体育館の整備検討

○帯広の森屋内スピードスケート場の整備

○帯広の森屋内スピードスケート場ナショナルトレーニングセンター誘致活動

○スポーツ大会合宿誘致活動の実施

○広域連携都市をめざして

○WiMAX(無線方式の高速通信)による農村地域ブロードバンド化の実施

○スワード市・朝陽市との高校生相互派遣

○自主・自律のまちづくりをめざして

○市民提案型協働まちづくり支援事業(8事業)

○コミュニティ施設の整備(栄・若葉各福祉センター移転改築)



若葉福祉センター